



2015(平成27年)10月25日発行

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)

住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15

TEL 06-6879-5021

<http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp>

禁転載 (この紙面は再生紙を使っています)

## がん化学療法の安全性と負担軽減をめざす

# 「オンコロジーセンター棟」



開放的な交流スペース



病棟数が倍以上となった化学療法室

# オープン!

がんに対する化学療法の進歩はめざましく、化学療法による治療を受けておられる患者さんが激増しています。本院は、患者さんが社会生活を営みながら、がん治療を続けられる「外来化学療法室」を平成16年に設置し、一日約40名を診療してきました。しかしスペースの関係で、化学療法が必要となる患者さんに対応できず、また検査室での

採血から各科診療室での診察、待合室までの動線も複雑で、待ち時間が長いという状況にありました。それらの問題を改善するため本院は、この9月7日に新しく「オンコロジーセンター棟」を開設しました。外来棟内を複雑に移動することなく、血液検査・診察・治療の全てを一つの棟内で一括して行うことで、患者さんの負担が軽減します。新棟の1階には、がん患者さん専門の採血室と検査室があり、患者さんは殆ど待ち時間なしに採血を終え、同じ階の診察室で各診療科の専門医による診察を受けることができます。そして2階あるいは3階に移動して化学療法を受けます。化学療法専用のリクライニングシートやベッドは、これまでの19床から42床に増設され、80名ほどの患者さんを治療することが可能となりました。

また、先進機器による化学療法法のチェックシステムを新たに導入し、患者さんの氏名や詳細な治療内容をパソコンで管理・確認するなど、リスクマネジメントも徹底されました。さらに、個々のリクライニングシートやベッドは、長時間の点滴に配慮してカーテンを備えるなどプライバシーにも配慮しており、患者さんはテレビモニターを覗きながら、リラクゼーションを兼ねながら、リラックスして点滴を受けられるなど快適な治療環境を用意しています。新棟の4階には抗がん剤の調製に特化した調剤室も設けました。ここでは薬剤師が防

### 国際的な臨床検査の品質基準をクリア

本院がISO15189を取得しました

この度、臨床検査部・輸血部・病理部・放射線部および超音波検査センターでは、臨床検査の国際認定であるISO15189の承認を得ました。このことは、本院での臨床検査が国際的に統一された規格に適合していると評価されたことを意味しており、より高度な国際標準に基づく精度保証が担保されたこととなります。今後は、ISO15189の規格を遵守して検査体制において日々改善に努め、本院における診療に貢献して参ります。

## 本院が臨床研究中核病院に認定 質の高い臨床研究で、より良質な医療を提供



認定証を持つ金倉謙病院長と澤芳樹医学系研究科長

本院は、8月7日、西日本では今回唯一となる医療法上の「臨床研究中核病院」に認定されました。「臨床研究」とは、医薬品や医療機器の開発に必要な、質の高い臨床研究・治療を推進するため、世界レベルの臨床研究や医師主導治療の中心的役割を担う病院として医療法上に位置づけられるものです。「能力」施設「一人」などの厳しい要件を満たした医療機関のみが厚生労働大臣の認可を受けて承認されます。

本院は「能力」においては、過去3年間の特定臨床試験数が、自ら実施した件数が11件、臨床研究というと、先進医療など特殊な研究のイメージがあるかもしれませんが、実際には、すでに、一般的な医療として提供されている治療法の有効性や安全性を検証するなど、患者さんが普段受けている医療と直結した研究も多く実施されています。また、日本ではまだ認められていない海外の医療に関する研究、再生医療のような未来の医療に関する研究なども推進されています。「臨床研究中核



ベッドにもテレビモニターを完備

期・若年成人ルームも設置しました。また3階には多様な診療科の医師・看護師などが集まり、治療方針などについて検討するためのカンサードホールも設置されています。また、現在設置したオンコロジーセンターの関連部署を一つの棟に集約することで、多くの患者さんに、余裕を持って、より安全な化学療法を提供すると同時に、患者さんの利便性を高める、地域がん診療連携拠点病院(国指定)としての機能をさらに充実、強化していきたい」と野口眞三郎オンコロジーセンター長・内分泌外科診療科長は抱負を語りました。

### 新診療科長等ごあいさつ

●胎児診断治療センター長 奥山宏臣

近年の胎児診断技術の進歩により、出生後の治療を円滑に始めることができるようになりました。その一方、出生前から治療を始めることとなり、より良い子供が期待できる疾患も明らかになってきました。このような疾患の診療に当たっては、胎児を一人の患者さんとみず、新たな診療体制が必要となります。胎児診断治療センターは、胎児の疾患に関わるすべての診療部門が連携し、生まれてくるお子さんとお母さんにとって、よりよい治療を提供することを目指します。

病院に認定されたことで、本院が一般的な医療から先進医療までを一貫してシームレスに受けられる病院だと認識していただけたこと嬉しく思います。また、竹原病院長補佐は述べています。臨床試験への参加を希望される患者さんが本院に集約されることで、十分な管理体制のもとでデータ収集を行うことが臨床研究が成ります。他の医療機関が希望する臨床研究に際しても、実施計画や倫理審査、データ解析などに語りました。

### 看護師 アシスタント 募集中!!

優しい医療、適える医療

経験者～ブランクのある方、復職希望の方、歓迎します。 随時募集中!

詳しくは阪大病院ホームページ「看護職員の募集」をご覧ください。

●問合せ先: 阪大病院総務課人事係 tel 06-6879-5026

<http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/hp-nurse/recruit/index.html>

小児科

子どもを取り巻く環境や、成長を見越した診療を重視



分野のサブスペシャリティ(基本領域)から、さらに専門分化した領域の専門医を揃えることで、高度な専門性を保ちながら、総合的な視点で病児を診療しています。

また平成20年に開設した小児医療センターは、安全性や感染不全の入院児室に配慮して出入りを制限し、病児が遊べるプレイルームや、長期入院児室を充実させるなど、病児のQOL向上をめざしています。

「医療機器のお医者さん」 エンジニアリングで命を守る 人工呼吸器や血液浄化装置、血圧計、内視鏡、電気メスなど、本院では、小さな道具から大掛かりな装置まで、毎日さまざまな医療機器が使われています。

「医療機器を保守管理」 各部へ貸し出された数は月平均1200台を超え、8年前のデータと比べると5倍以上です。

その点を重視し、子どもを取り巻く環境全てに目配りして対応できるように考えています。

病児や外来が保有する機器を含め、院内で使われる医療機器全体の保守管理を行っており、MEサービス部は、医療機器のエンジニアリングで命を守る。

病院内を巡り、病棟内を回して、使われている医療機器が正しく作動しているかなどを点検するのも大切な任務です。

誰もが理解した上で操作できるように、従事者全体の知識の習得と技術の向上に努めています。

ホスピタルミニ・ニュース TOPICS

病院でプラネタリウム



7月24日、小児医療センターで移動プラネタリウムの上映会が開催されました。

病院見学会報告

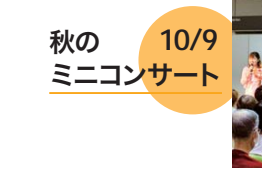
9月24日、一般市民の方を対象とした病院見学会が今年も開催されました。



臨床検査部や薬剤部など、普段は立ち入ることのできない病院内部を見学し、参加者からは「実際に現場で働いている方の話を聞いてうれしかった」



7/30 一日看護師体験



10/9 秋のミニコンサート

市民公開フォーラム

「がん診療を支える多職種専門家たち」

- 参加者募集
○日時：平成27年12月5日(土)午後1時~3時30分
○場所：大阪大学医学部講義棟A講堂
○募集人数：240名(先着順)※定員になり次第〆切
○申込期限：11月26日(木)【必着】参加費無料
○講演内容：
1.はじめに -オンコロジーセンター棟の設立にあたって-
2.がん登録ってなに?がん登録からなにが見えるの?
3.AYA世代談話室 -つなぐが治療をささえる-
4.がん相談支援センターとは -扉はいつも開かれています-
5.抗がん剤のお話 -うまく使って効果を最大限に-
6.外来でのがんの治療について -より安心に、快適に-
7.質問コーナー
○申込方法：FAX、メールまたは葉書に必要事項(①氏名、②郵便番号、③住所、④電話番号、⑤性別、⑥年齢、⑦参加人数(4名まで可))を明記のうえ、下記へお申込みください。

より良い紙面づくりのために、阪大病院ニュースへのご意見、ご感想をお待ちしております。

誰もが理解した上で操作できるように、従事者全体の知識の習得と技術の向上に努めています。

当科は、「腎代謝」「内分泌」「血液腫瘍・免疫」「臨床神経」「神経代謝」「臨床遺伝」「発達障害」「睡眠」「栄養発育」「循環器」「新生児」「臨床免疫」の10臨床グループにより、小児医療の幅広い分野をカバーしています。

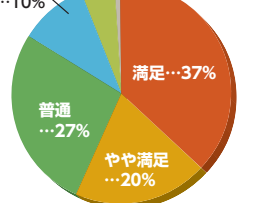
MEサービス部 エンジニアリングで命を守る 人工呼吸器や血液浄化装置、血圧計、内視鏡、電気メスなど、本院では、小さな道具から大掛かりな装置まで、毎日さまざまな医療機器が使われています。



病棟内を巡り、病棟内を回して、使われている医療機器が正しく作動しているかなどを点検するのも大切な任務です。

誰もが理解した上で操作できるように、従事者全体の知識の習得と技術の向上に努めています。

病院食アンケート結果



6月に病院食について、アンケートを実施しました。満足度の項目では、80%以上の方に普通以上の評価をいただきました。

『おすすめ御膳シリーズ』第四弾! 栄養マネジメント部長おすすめ



今回は、検食を始めて10年の下村伊一郎栄養マネジメント部長が、味に太鼓判を押す「阪大オリジナルカレー」を、フタを開けた瞬間「びっくり、ほっこり、にっこり!」していただけるように夏野菜で笑顔に飾り付けました。